

中国における高齢者のソーシャルサポートに関する研究

馮 涛・田 中 共 子

1. はじめに

近年人と人との助け合いを、ソーシャルサポート (social support、社会的支援) として概念化した研究が行われるようになっていく。ソーシャルサポートはどのように定義されるのかは、研究者によって様々であり、今のところ単一の明確な定義は見当たらない。ただしソーシャルサポートにはいろいろな働きや効果があることが注目されているため、その機能的側面に注目したアプローチが多く見られる。その中心は心身の健康の保持や増進、適応状態に及ぼす影響に関するものである (上野, 2002)。ストレス緩衝機能の増加、精神的満足感や幸福感を得る機会の増大などの点で、人と人との間でとり交わされる有形無形の援助は、有用な結果を招くものとされている (田中, 2000)。

一方、社会の高齢化は、全世界規模で進行中である。日本のみならず中国でも、その対応が注目されている。高齢化社会を快適なものにしていくためには、社会資本や制度の充実のみならず、人と人との関係をいかに結びつかわせるかといった、人間的な要因からの検討も欠かせない。ソーシャルサポートが、人間の健康や幸福に肯定的な影響をもたらすものとして期待されるなら、高齢化社会におけるその機能的検討も、重要な視点となろう。この故に、世界中の社会学者、心理学者、医学者はそれぞれの立場からソーシャルサポートを研究している。中国もその例外ではなく、近年ソーシャルサポートの研究が盛んになってきている。中国では昔から家族成員、近隣の間の支える伝統があり、また近代中国の社会主義社会計画経済において仕事先、いわゆる「単位」や、「集体」からの精神的、経済的サポートは社会福祉政策として見られたが、市場経済への転換に従って、人々の価値観も変わってきた、また「一人っ子政策」による核家族化などの原因で、従来の家族、近隣、「単位」、「集体」からのサポートが崩壊する恐れがあり、それに対応するソーシャルサポートに関する社会福祉政策が必要である。

本研究では、中国における高齢者のソーシャルサポートの先行研究を概観し、研究の知見をとりまとめながら、ソーシャルサポートの概念及び評価上の特徴、存在している問題点を整理する。中国における高齢者のソーシャルサポートに関する研究については、まだ研究蓄積が十分とはいえない段階にあるが、将来の日中比較を視野に入れるなら、その第一段階として中国での研究を整理する必要があると考えられる。本稿では、今後の方向性を見いだす展望を行いたい。

2. 現代中国社会と高齢者

中国では、2005年末の調査によると、総人口数は130,628万人（香港、マカオを含まない）に達している。そのうち60歳以上の高齢者が14,300万人を超えて、総人口数の10.97%を占めており¹⁾、中国は高齢化社会に入っていることが明らかになっている。中国の高齢化社会の特徴としては、まず多数の人口を背景に、高齢者数が絶対的に多いこと、さらに高齢化のスピードが速いことである。1982年から2000年までの18年間で、中国の60歳以上の高齢者は7,664万人から1.34億人に増加した、2001年から2020年まで毎年596万人高齢者が増えると予測している²⁾。また「未富先老」すなわち生活が豊かになっていないうちに高齢化してきた、ということも問題とされている。世界銀行によると2004年の中国のGDPは、一人あたり4,580国際ドルで、世界の中での順位は94位である。この数値からすれば、中国は比較的低所得国家として位置付けられる³⁾。このような状況下で、高齢者はいかにして健康で幸福に生活していくかが、重要な課題となってきた。

中国特有の歴史的、社会的、経済的な事情を背景に、50～80年代の計画経済体制においては、「高就職、高福利、低賃金」という雇用制度が続いてきた。その中では、個人または家族が生活上の困難を抱えた場合には、政府や所属先が援助してくれるという体制が行き渡っていた。しかし経済改革が進むに従って、計画経済から市場経済へと次第に切り替わっていき、収入の差も激しくなってきた。社会の中の特定の人々、特に高齢者の生活水準は、急速に下がってきた。こうした困窮層の規模は、拡大する傾向もある。ところがそれに対する社会保障や援助体制の方は、まだ変化に乏しい。有効な福祉の保障が整えられていない現状にあるため、多くの高齢者に関してその老後の扶養は、家族成員の責任となってしまうのである。こうした現状で、現代中国の家族にとって、高齢者の世話をすることが大きな負担になってきている。それゆえに、中国においても、高齢者をどのような援助するのが望ましいかという問題は注目を集めており、ソーシャルサポートの研究がより意味を持つようになってきたといえよう。

中国における高齢化が加速していると同時に、家族の構造も逆ピラミッド型へと変わりつつある。1979年からの「一人子政策」によって、「4：2：1」の家族（老人四人、父母二人、子供一人）が増加している。また経済発展に伴う人口の移動によって、核家族化が進んでいる。そのため高齢者夫婦の二人暮らしや一人暮らしが増えている。こうした社会的変化の進む中で、高齢者の生活満足度、幸福感、生活の質（QOL）を向上させるための手段として、ソーシャルサポートという視点の持っている可能性が注目される。社会が変化していく中でも、身近な人と人とのつながりに恵まれている状況を作り出せるなら、高齢者の心理的安定を高められると期待されるからである。

3. 中国におけるソーシャルサポート研究の動向

(1) ソーシャルサポートの捉え方

中国におけるソーシャルサポートに関する主な研究を表1にまとめてみた、ソーシャルサポートの

研究がおよそ1990年ごろから始まっている。それらがどのようにソーシャルサポートを捉えたり定義したりしているか、代表的な記述をまとめてみよう。総じてソーシャルサポートは、人々が周囲から得る助け全般を包括したものとみられている。そしてその機能として、ストレスの緩衝や適応の向上など、心理的なメリットが注目されている。なおその供給源は、個人的な対人関係網から公的な制度までが多様に含まれ、交換を前提としたものから弱者への助けるという救助的なニュアンスのものである。

(2) ソーシャルサポートの下位分類

ソーシャルサポートについては多様な見方があるものの、サポートの性質に鑑みて、測定次元における下位分類をもうけているものが多い。

一つは、その実態に客観性があるか主観的なものかを区別した、「客観的、主観的」サポートという分類である。「客観的サポート」は、例えば「物質的サポート」(肖, 1993) や、物、金銭など見える形で直接援助することを指す。「主観的サポート」の方は、主観的感觉に関わるものとされる。「情緒的サポート」は、精神的に慰めることを中心とし、他に生活の介護なども含まれることがある。情緒的サポートは、肖(1993)によれば、個人が社会生活において尊厳を持って扱われている、理解されている、という感じを持たせてくれるような関わりを意味する。

この二分分類は、中国に限らず一般的なソーシャルサポート研究でも、多く受け入れられている考え方である(上野, 2002)。ソーシャルサポートには複数の種類やタイプが想定されることが多いが、大別すると、情緒的サポートと道具的サポートの二つにまとめられ、前者は愛情を示す、共感する、尊重する、励ます、気を配るなど、相手を情緒的、精神的に支えることであり、後者は、問題解決のための情報や技術を提供したり、物質的、金銭的な援助を行ったりすることである、とされている。

回答者の主観評定からみた、サポートの供給量は、都市においては総じて情緒的サポートが多く(崔, 2001; 申, 2003; 黄, 2005; 鄭, 2005)、農村部においては物質的サポートが多い(梁, 2004; 王, 2003)。都市部の高齢者の生活は、経済的面においては農村部の高齢者より豊かであることが伺われる。あるいは生活に困らないときに、精神的な豊かさを追求するともいえるかもしれない。

(3) ソーシャルサポートの供給源

ソーシャルサポートのリソース、つまり供給源として取り上げられてきたものに、配偶者、家族、友達、近所、親族(兄弟、姪や甥)、仕事仲間の他に、中国らしい単位として、「党」(共産党)、「団」(青年団)、「工会」(労働組合)などの公的組織がある。これらからの公的なサポートは、これまで一定の役割を担ってきている(肖, 2005)。

供給源の分類には、何通りかの方法が見られる。その一つは「親族と親族以外」という分類である。親族はさらに配偶者・子供・その他に分けられ、子供はさらに息子・娘に分けられる。親族以外は、友人・知人・職場の同僚に分けられている。農場や工場などでは、職場を単位とした互助組織が発達していることが多い。そのため、職場のネットワークが特に選択肢として重要な意味を持つ(賀, 2005)。

こうした広範なサポート組織が存在することが、中国のサポートネットワークの特性といえるかもしれない。しかしながら現代中国においては、経済的な自立が志向されていることを考えあわせると、公的組織からのサポートは次第に縮小されていく可能性があるだろう。

サポートの供給源をフォーマルサポートとインフォーマルサポートで分けた例もある。フォーマルサポートは、国家や政府から提供する社会福祉を指す。インフォーマルサポートは、親族(家族)、近所、友達などで構成されるネットワークから、高齢者に提供された経済的、精神的サポートを指す。この二つのサポートは機能が異なっており、それぞれ重要なものである。有効に調整すれば、高齢者に良い生活満足をもたらすものとして期待される。ただし両者を比較した研究では、インフォーマルサポートがより重要なサポート源であるという指摘もみられる(姚, 2002)。

4. 研究の特徴

(1) 調査地域間の差

中国においては地域による経済レベルや生活水準の格差があつて、全土を調査しても代表性の確保が難しい。そのため全国調査ではなく、地域ごとの調査研究が盛んに行われる傾向がある。調査地域は、大都市(北京市、上海市)から中小都市(広東省、浙江省、江蘇省、湖南省、山東省にある都市)、農村部(山西省、湖北省の農村部)に及んでいる。ソーシャルサポートに関する研究調査の対象地域は、首都から東北部(瀋陽市)に至るまで中国全土に分散している。特に高齢化が激しい地域において、研究が進んでいるように思われる。例えば上海市は高齢化率が11.53と最も高く、続いて浙江省が8.84、江蘇省が8.76、北京市が8.36である⁴⁾。また経済レベルが高い都市は、高齢化問題を重視しているようにも見受けられる。例えば2004年における中国全国のGDPのデータから見ると、第一位は広東省、続いて山東省、江蘇省、浙江省である⁴⁾。

ソーシャルサポートの内容から見ると、都市部においては、情緒的サポートが最も重要とされ、経済的サポートが少ないという結果が見られる。一方、農村部においては、高齢者にとって経済的サポートが最も重要であるとされている。これは都市部においては、ほとんどの高齢者は定年退職して年金で暮らしているが、ある程度の生活保障はできているということ、しかし農村部の高齢者は仕事ができなければ、生活資金を失ってしまうため、子供に頼るしかないという現状を反映しているものと思われる。経済と情緒的サポートと、どちらがより現実的で切実かという問題がそこにはある。

(2) 扱われている変数

研究で扱われている内容、つまり調査項目に含まれて測定された変数は、以下である。まず高齢者のソーシャルサポートと属性、供給者の属性や高齢者との関係が測られている。他に高齢者の生活の満足度、主観的幸福感、生活の質(QOL)が測定されることが多く、サポートとこれらの間の相関が検討されている場合が殆どである。

(3) ソーシャルサポートの測定方法

ソーシャルサポートの測定尺度としてよく用いられているのは、「肖水源のソーシャルサポート測定尺度 (SSRS)」とされるものである。この尺度は、肖が1986年から1993年にかけて開発したものである。彼はソーシャルサポートをまず、客観的サポートと主観的サポートに分類している。客観的サポートは、主に経済的また物質的なものに関する、直接的なサポートである。これは団体や組織からの提供も想定されるものである。主観的サポートは、自分が感じるサポート、あるいは情緒的サポートを指す。この測定尺度は、客観的サポートが3項目、主観的サポートが4項目、ソーシャルサポートの利用度が3項目、合計10項目で構成されている。

なおサポートの供給量の評価の仕方としては、全て主観的なサポート評価であり、受け取ったと認知しているサポート量について評価が行われている。教示としては、主観的サポートについての質問として、何人の親しい友達がいるかと尋ねている。その問いに対して、「一人もいない」から「六人あるいはそれ以上」の範囲で答えている。また近所、仕事仲間との関係などについては、「挨拶だけ」から「よく気にかけてくれる」までの四件法で尋ねている。客観的サポートについての質問項目では、困ったときに誰に助けてもらうかという問いに対して、「誰もいない」あるいは「いる」、「いる」場合には配偶者、家族のほかには成員、親族、仕事仲間、会社、公的組織（党、団、労働組合）、宗教、社会团体、そのほかの選択肢から選ぶ形で、尋ねられている。

受け取り側において、実際に受け取ったと思う量（知覚）、必要なときには受け取れると思う量（期待）、自分として受け取りたい量（需要）などを区別した測定は見られない。供給者側からの調査、例えば与えたと思う量（知覚）、与えたいと思う量（供給希望）、実際に与えた量（実行）、などを区別して測定したものもみられない。授受バランスや、エクイティ（等しさ）を測定する試みもまだない。

5. 研究から得られている結果

(1) ソーシャルサポートの主たる供給源

賀（2005）が山西省農村部の高齢者を対象にして調査した結果では、すべてのネットワーク成員において、最も高齢者にサポートを提供しているのは親族であった。親族の中では、子供が最も供給量が多い。親族以外では近所の人たちが最も多く、続いて友達、仕事仲間の順である。子供の中でも、息子と娘の役割は異なっているようである。息子は主に経済的サポートを提供する。例えば老人に収入がない場合には老親の扶養を担い、老人にお金を貸す。また老人に力仕事をしてあげたりもする。娘は主に情緒的サポートを提供している。老人が病気に罹った場合の介護においても、主力となっている。

中国の農村部においては、やはり高齢者へのソーシャルサポートの提供者は主に子供であり、ことに息子は重要な役割を果たしているといえる。一方、都市部においては、ほとんどの高齢者は収入があるため、子供や、家族からの情緒的サポートを多く求められている（寿，2001；梁，2004；王，2005）。

(2) ソーシャルサポートと基本属性との関係

基本的属性としては、性別や年齢や学歴や婚姻状況が取り上げられている。翟（2003）らの山東省済寧市における調査結果では、ソーシャルサポートと年齢との間に有意な負の相関がある。職業や婚姻状況との間にも、有意な正の相関がある。つまり年をとるに従って、身体状況が悪くなり、活動の範囲と共にソーシャルネットワークも小さくなると解釈できる。陳ら（2005）の武漢市における調査結果では、年齢が高ければ高いほどサポートの量が少ない。また学歴が高いほうがサポートの量が多い。王ら（2005）の鄭州における研究では、ソーシャルサポートの総合得点から見ると年齢、学歴、職業に有意な差がある。しかし以上の研究のいずれにおいても、ソーシャルサポートに関する有意な性差は報告されていない。

つまり、加齢の影響で身体的能力が低下し、活動できる範囲が縮小することによって、ソーシャルサポートを獲得できる量が減っていくことは一致した見解といえるだろう。ただし性差が認められないという現象の理由としては、中国が比較的「男女平等」で、働く女性が多いため、男女とも積極的に社会参加をして経済的にも独立していること、また社会や家庭において女性が男性と同じような地位や状況を持っているがゆえに、ソーシャルサポートにおいても大きな差が生じにくいということが考えられる。

(3) ソーシャルサポートの効果を反映する変数

基本的属性以外に、ソーシャルサポートとの関連を調べられている要因としては、幸福感や生活の質（QOL）や心理的健康に関する変数がみられる。従属変数としてよく使われているものとしては、「幸福感」についてはPGCモラルスケール、「健康」については症状の自己評価尺度であるSCL-90やMOS SF-36があげられる。

鄭ら（2005）の調査では、ソーシャルサポートと幸福感に正の相関が見いだされている。そして婚姻状況、学歴は幸福感との間に正の相関があるという。総合得点から見ると、高齢者の生活満足度はやや高い、ソーシャルサポートにおいて主観的サポートが客観的サポートより高い、とされている。

「生活の質（QOL）」とソーシャルサポートに関する研究も行われている。黄ら（2005）は、生活の質を、MOS SF-36中国版という測定尺度を用いて調べている。MOS SF-36尺度は8つの下位領域から生活の質を測定するもので、それは身体機能、日常役割機能、体の痛み、全体的健康感、活力、社会生活機能、日常役割機能、心の健康の8つである。重回帰分析を用いた分析結果によれば、ソーシャルサポートの総合得点は、生活の質の相互得点や、全体的健康感以外の7つの下位領域の得点との間に、有意な正の相関が認められている。ソーシャルサポートの中でも、主観的サポートは、生活の質との間に強い相関が見られた。

このことから、ソーシャルサポートを受けることは、生活の質に肯定的な影響をもたらすものと考えられる。

(4) ソーシャルサポートのストレス緩衝効果

ソーシャルサポートが、心理的健康においてストレス緩衝効果を持つという仮説を検証する枠組みのもとになされた研究としては、陳ら(2005)の報告がある。軽度ストレスがある男性高齢者は、近所、仕事仲間、家族、収入、社会活動からのサポートが、ストレスを緩和しており、心理的健康にも肯定的な影響を与えている。中度や中度以上のストレスがある場合には、家族からのサポートが最も肯定的な影響をもたらすとしている。女性の場合は男性とはまた少し異なるという。軽度ストレスがある女性高齢者は、友達、仕事仲間、社会活動からのサポートが、ストレスの緩和に効果をあげており、心理的健康にも肯定的な影響があるとされている。そして中度、また中度以上のストレスがある女性高齢者は、慰めという情緒的なサポートが、ストレスを緩和し心理的健康度にも肯定的な影響をもたらしているとされる。

以上からみると、ソーシャルサポートは心理的健康に対して肯定的な影響を与えており、ストレス緩衝を通して健康への肯定的効果を持つことが示されているといえよう。ただしサポートの種類や性別により、心理的健康に果たす役割の詳細は異なる。

6. 問題点と今後の課題

これまで見てきた研究の系譜から、研究上の問題点や今後解決すべき点を挙げてみたい。

(1) 調査対象者の範囲

上記の多くの研究では、高齢者の定義を明確に示していない。国連の世界保健機構(WHO)の定義では、65歳以上の人のことを高齢者としている。しかし中国衛生部の規定では、60歳以上の人は高齢者とされる。さらに、高齢者を対象とした中国のこれまでの研究の中には、55歳以上の人を対象とした研究も多く見られる。

従って、中国での高齢者研究は、より若年層を含めて測定を行っている可能性があり、結果も当然その影響を受けていると推測すべきであろう。そこで、研究結果を引用する際には、高齢者として扱われている調査対象者の年齢の範囲に注意を払わねばならないだろう。

(2) 研究デザイン

医学系の所属を持つ著者が多いためか、社会医学的関心に基づくシンプルな研究枠組みを持った研究が目立つ。例えば、生活の質や、心理的健康度や、幸福感などを測定してソーシャルサポートとの相関を見るとか、またソーシャルサポートを独立変数、生活の質などを従属変数の重回帰分析などである(黄, 2005; 王, 2005; 鄭, 2005)。しかし、ほとんどの文献に用いられた測定尺度の項目は示していないため、どんな項目を扱われたか、どんな構造モデルであることかを検討せず、非常に曖昧である。今後引用する際には十分注意しなければならない。

分析方法に関してみると、ほとんどの分析方法は相関と重回帰分析である。こういった分析方法は複雑な関係を検証したい場合には、統計的にみて誤差が蓄積するなど不十分な面を持っている。もし

ソーシャルサポートの構造的特性を検討しようと思うなら、より詳細な吟味ができる手法を活用することが考えられる。例えば、構造方程式モデリングの分析手法は、モデルの構成力が従来の分析手法に比して非常に柔軟であり、その適合度の検定を通してモデルの妥当性を検証するとともに、変数間の関係の程度や寄与率の検討が同時に行えることを特徴としている。ソーシャルサポートがストレスにどのような関係があるかという視点での検討には、有効であろう。この方法を用いれば、理論に基づいてモデルを何通りか立てて、それらのモデルの適合度を比較するといった検討もできよう。

日本や欧米ではよく見かける、ソーシャルサポートの心理的な機能発揮に至る内的メカニズムの探求や、ストレス認知から対処に至る心理過程の研究、あるいは性格や価値観や態度など他の多くの心理的変数との関わりをみた研究は見つけにくい。問題の焦点にあわせて多変量解析を駆使したりする複雑な解析も見つかりにくい。

こうした研究デザイン上の特色は、研究の視点が公衆衛生や老年医学であるのか、心理学であるのかといった、分野の違いが影響している可能性がある。心理的メカニズムの解明自体を目的とするのか、健康に影響を与える変数の一つとして把握しておきたいのかといった、着眼の相違を反映しているものと思われる。

(3) 介入研究

総じて調査研究が多く、調査の結果を報告して実態を実証的に明らかにするというスタンスのものが目立つ。全体に介入研究の試みはまだ希薄といえる。これは介入が不要というのではなく、介入研究や実践研究が、まだ研究的に注目されていないためではないかと思われる。高齢社会を迎えて、高齢者の心理的安寧を果たしたいという意識は、調査の意義と絡めて序文に書かれていることが多く、現状を肯定的に変化させることへの関心は決して低くはないと推測される。

今後考えられる研究計画として、例えば農村部と都市部、健康に問題のある高齢者と健康な高齢者などを群分けして、それぞれに適したサポート増加プログラムを試みて、幸福や満足への影響を評価することが考えられるだろう。また、中国ならではの特徴的なサポートの実態は、必ずしも明らかではない。中国的なソーシャルサポートの実際的な姿を描き出すような質的研究や、背景にある思想や価値観とつなげて解釈するような社会的な広がりを持った研究も必要ではないだろうか。海外で開発された質問紙の翻訳版を単純に適用するのではなくて、質的研究からソーシャルサポートの現象を掘り起こしていけば、より中国の特徴にふさわしい妥当性の高い測定尺度ができる可能性があるだろう。

表1 中国におけるソーシャルサポートに関する研究文献一覧

	文 献 名 著者名, 出版年	対 象	測定尺度 測定内容	結 果
1	社会支持网络及其在社会 工作(个案)中的应用 (张洪英 2002)	理論的研究		①インフォーマルなネットワークの重要性と必要性を提案する。 ②政府の支持を得ることが重要。 ③人材の育成によって、サービスの質を向上する。 ④専門的なソーシャルワークの補渡し役として、インフォーマルのソーシャルサポートネットワークは利用できる。 ⑤ソーシャルワークにおいて、フォーマルネットワークとインフォーマルネットワークを結びつける必要性を示唆。
2	社会工工作在老年介護以服 务中的作用 (孙唐水 2004)	理論的研究		① サービスの案内を提供。デイサービスや長期介護、法律、家族のトラブル、仲介サービス。 ② 高齢者が社会参加するチャンスを提供する。 ③ コミュニティや、町づくりへの参加。
3	老年人与成年子女间社会 支持的结构及特点 (Structure and characteristic of social supports between the elderly and their adult children) (王大华 申继亮 佟雁 2005)	北京海淀区と西城区 に住む高齢者(60~78 歳)が20名(訪問調査) アンケート調査: 北京、 瀋陽、山西、湖北、四 省から選んだ高齢者288 名(53~87歳)、男性 は159名、女性129 名、平均年齢は65歳	1) 高齢者が子供から受ける ソーシャルサポートに関する 質問項目(34項目) 2) 子供が高齢者から受ける ソーシャルサポートに関する 質問項目(30項目)	① 高齢者が子供から受けるソーシャルサポートの構造: 34項目を探索的因子分析(主成分分析)した結果、3因子を抽出し、「経済的サポート」、「サービスのサポート」、「情緒的サポート」と命名した。因子負荷量によって8項目を削除した。α信頼係数は0.94であった。 ② 子供が高齢者から受けるソーシャルサポートの構造: 30項目を探索的因子分析(主成分分析)した結果、3因子を抽出し、「経済的サポート」、「サービスのサポート」、「情緒的サポート」と命名した。因子負荷量によって2項目を削除した。α信頼係数は0.91であった。 ③ 高齢者が「受けるサポート」と「与えるサポート」について相関分析を行った結果、「情緒的サポート」の間の相関が最も高く、続いて「サービスのサポート」、「経済的サポート」の順に高い。 ④ t検定による結果: 受けるサポートよりも与えるサポートの方が高く、また受ける経済的サポートとサービスのサポートは与える場合のそれよりも高い。その差は全て有意であった。 ⑤ 多重比較の結果: 高齢者は「受けるサポート」において、「サービスのサポート」が最も多い。「情緒的サポート」、「経済的サポート」は最も少なく、その間に有意な差がある。高齢者の「与えるサポート」において「サービスのサポート」と「情緒的サポート」の間に有意な差はない。 ⑥ 高齢者のサポートと性別、年齢などの関係: 子供の人数が多いほど高齢者は「受けるサポート」も多い。高齢者は若い、また収入が多いほど子供に与えるサポートが多い。
4	老年人与成年子女间社会 支持与老年人自尊的关系 (申继亮 张金颖 佟雁 周丽清 2003)	北京、瀋陽、山西、湖 北、四省から選んだ高 齢者288名(53~87 歳)、平均年齢は65歳	1) 高齢者への子供からのソ シャルサポートに関する質 問項目(26項目) 2) 子供への高齢者からのソ シャルサポートに関する質 問項目(28項目) 3) 自尊測定尺度(SES) 10項目	① ソーシャルサポート測定尺度を検証的因子分析を用いて分析した結果、高齢者が受けるサポートについての尺度のα信頼度は0.91($\chi^2/df=2.756$, CFI=0.985, RMSEA=0.078)であった。高齢者が与えるサポートについての尺度のα信頼度は0.94($\chi^2/df=2.586$, CFI=0.988, RMSEA=0.074)であり、いずれも統計的に有意であった。 ② 高齢者が受けるサポートと与えるサポートを独立変数、高齢者の自尊心を従属変数として因子分析を行った結果、寄与率は0.209であった。 ③ サポートと高齢者の自尊心との関係は、高齢者がサービスサポートを受けるとき、また子供に情緒的サポートを与えときに高齢者の自尊心が高いという関係がある。

5	养老院老人社会支持网络和生活满意度研究 (崔丽娟 秦茜 2001)	上海市区立老人ホームに入所している、子供がいる高齢者96名。男性は46名、女性は50名、年齢は65～99歳	1)基本属性 2)自己満足度(GWB測定尺度) 3)ソーシャルサポートネットワークの現状 4)ソーシャルサポート測定尺度	①生活満足度の回答分布は「非常に満足している」と「やや満足している」のは38.5%、「非常に満足していない」のは5.2%。 ②ソーシャルサポートネットワークと生活満足度の間に正の相関がある。 ③高齢者間のサポートと老人ホームの設備のサポートは生活満足度に大きな影響を及ぼす。 ④精神的サポートは生活満足度に最も大きな影響を及ぼす。 ⑤生活満足度は教育歴と年齢に有意な差が見られなかった。 ⑥言いたいことがあるとき、困っているとき、また助けを求めたいときのサポートは子供からのサポートが一番必要。
6	上海市高齢老人生活質量及其社会政策支持 (寿莉利 朱明 2001)	上海市に住む60歳以上高齢者342名	1)経済 2)居所の環境 3)健康状態 4)生活満足度	①家族の構成:男性は25%が配偶者と同居、女性は12%が配偶者と同居、95%の高齢者は家族と同居。 ②近隣関係:76%の高齢者は近隣との付き合いがある、会う(70%)、電話で連絡する(19%)、92%の高齢者は家族と連絡する、会って話をする(85%)、電話で連絡する(74%)、手紙で連絡する(9%)、頻度としては近隣より家族のほうが多い。 ③高齢者の自分の生活に関する満足度は「満足している」と「ほとんど満足している」が95%を占める。 ④健康状況に関しては「満足している」の割合が低い、「ほとんど満足している」は上昇の傾向があり、総体的には84%を占める。
7	老年病人脑卒中后抑郁与 社会支持的相关分析及心 理护理 (Correlation between post-stroke depression in old patients and social support and psychological nursing) (孙海香 梁芬 于鸿宾 2003)	2000年～2003年に広 東省韶關市第一人民 病院に入院している高 齢脳卒中患者65人を 対象として調査票を配 布し、回収60部、男性 51名、女性9名、平均 年齢は66.25歳(60～ 88)	1)高齢者意欲うつ測定尺度(The Geriatric Depression Scale GDS) 30項目 2)ソーシャルサポート測定尺 度(SSRS) 10項目	①意欲うつを測定した結果:32名の患者は意欲うつを確っている、普通の人以上に罹患率が5～10%高い。 ②GDSの平均得点は8.88点、ソーシャルサポートの平均得点は40.5点であり、相関係数は-0.28、有意な負の相関が見られた。
8	社区老年人生存质量与社 会支持的相关性研究 (A study on the relationship between quality of life and social support of elder in community) (黄俊强 陈珏尔 舒小芳 2005)	広州市に住む年齢60 ～85歳の高齢者124名	1)基本属性(性、年齢、教育 歴、婚姻状況、居住状態) 2)MOS SF-36中国版 3)ソーシャルサポート測定尺 度(SSRS)	①QOLにおいて(1)年齢が高いほど身体機能(PF)は低下する(2)男性は女性より全体的健康感(GH)と心の健康(MH)が高(3)教育歴が高いほどPF、RP(日常役割機能-身体)、BP(身体痛み)、GH、VT(活力)、RE(日常役割機能-精神)が高い(4)配偶者がいる高齢者のほうがBP、SFが高い。 ②ソーシャルサポートにおいて(1)年齢が高いほど主観的サポートが高い傾向がある。(3)配偶者がいるソーシャルサポートの総得点及び客観的サポート、主観的サポートが高い傾向がある。(4)QOLとソーシャルサポートとの相関はGH以外全て正の相関がある。
9	社会支持网络规模与老年人 生活满意度的关系 (许传新 陈国华 2004)	2002年に武漢市にお ける高齢者のソニー ルサポート状況調査か ら得たデータを分 析、60歳以上の高齢者 600名	1)高齢者の扶養(経済的扶 養、生活の扶養、情緒的扶 養) 2)経済的サポートネットワーク 規模(生活の介護ネットワーク 規模、情緒的サポートネット ワーク規模)	①三種類のサポートネットワーク規模に有意差は見られないが、「情緒的サポート」の平均値・標準偏差・最大値は他と比べてやや大きい。 ②サポート間の関係をみると、サポートネットワークなしの場合は「経済的サポート」が30.4%、「情緒的サポート」が54.4%、「生活の扶養的サポート」が4.5%である。 ③ネットワークと満足度の関係:生活満足度を従属変数、各サポートネットワーク規模を独立変数とする重回帰分析の結果、ネットワーク規模と生活満足度の寄与率は41%であり、「経済的サポート」の影響が最も大きい。「生活の扶養的サポート」の影響は最も小さい。高齢者の子供の数、健康状況、収入は生活満足度に有意な相関がある。学歴、職業、仕事環境、婚姻状況、年齢、性別、居住状況は生活満足度に有意な相関が見られなかった。 ④回帰分析の結果:子供の数、健康状況、収入は生活満足度への寄与率が12.3%であり、最も影響があるのは収入状況(0.34)、次が健康状況(0.118)、子供の数は0.089であった。

10	社会支持对老年人心理健康影响的研究 (陈立新 姚远等 2005)	武漢市の四つの区に住む60歳以上の高齢者500名	1)ソーシャルサポート測定尺度(SSRS) 2)症状の自己評価尺度(SCL-90) 3)社会的再適応評定尺度(SSRS)	①ソーシャルサポート測定、性別と年齢による差は見られなかった、学歴の差が見られた。 ②ソーシャルサポートにおいて、性別に差はなかったが、年齢と学歴別の差が見られた。 ③ソーシャルサポートとストレスを独立変数、心理的健康を従属変数とする一元配置分散分析と多重比較を行った結果、ソーシャルサポートとストレスは高齢者心理的健康に直接効果があり、ソーシャルサポートとストレスの間に交互作用もあった。 ④ストレスを独立変数、心理的健康を従属変数として同帰分析を行い、またソーシャルサポートを独立変数に加えて分析結果を比べると、ソーシャルサポートは高齢者のストレスと心理的健康に間接効果を持つことが分かった。 ⑤男性の場合：軽度ストレスの状況において、高い「近隣」、「仕事仲間」、「家族」、「経済」、「活動」のサポートはストレスを低減する、中度あるいは中度以上のストレス状況においては、高い「家族」にもえらる」サポートは低い「家族」にもえらる」サポートよりストレスを低減する。 ⑥女性の場合：軽度ストレスの状況において、高い「友人」、「仕事仲間」、「活動」のサポートは低い「友人」、「仕事仲間」、「活動」のサポートよりストレスを低減させ、中度あるいはそれ以上のストレスの状況において、高い「慰めのサポート」は低い「慰めのサポート」よりストレスを解消できる。
11	Effect of confidence and social support on quality of life in elderly Chinese in Suzhou (Lei Zhang, Li Li, Jing-xia Zhang, Jiu-Yi Huang, Yong Long, Bo Wang, Liang-Shou Li 2004)	蘇州市に住む病院、学校、工場、また軍隊からの定年退職高齢者167名、男性86名、女性81名	1)ソーシャルサポート測定尺度(SSRS) 2)PGCモラールスケール 3)MOS SF-36、高齢者生活の質調査表	①PGCモラールスケールの得点は(17.74±3.76)、ソーシャルサポートの総合得点は(37.72±7.48)で中国国内の平均値より高く、生活の質の平均値は(28.95±3.06)で、これよりやや高い水準に達した。 ②MOS SF-36はPGCモラールに正の相関がある。 ③収入とPGCには相関がなく、また住居状況と栄養状況は客観的サポートと相関が無い、他の各因子との間にすべて有意な相関が見られた。 ④MOSSF-36の活力とメンタルヘルス因子と主観的サポートとの間に有意な相関が見られた。 ⑤生活の質の総合得点は家族の関係、社交、また生活満足度と主観的サポートとの間に有意な相関が見られた。 ⑥家族の関係、居住条件、生活満足度は客観的サポートと有意な相関がある。 ⑦心理衛生はサポートの利用度と有意な相関が見られた。
12	绍兴市老年心理健康状况及社会支持的相关性 (Analysis on Mental Health and its Pertinence of Society's Support of Elder in Shaxinf City) (甘建华 陈梅 2001)	紹興市にある地域に住む高齢者(女性55歳以上、男性60歳以上)1119名(男性439名、女性680名)	1)症状チェックリストSCL-90 2)SSRS測定尺度	①SCL-90の身体因子は国内の正常モデルに比べると高い、他の因子は低い傾向があった。 ②SCL-90の各因子の得点と年齢との相関を見ると、各因子と年齢との相関が小さく、ソーシャルサポートの総合得点とほぼ負の相関が見られ、かつ客観的サポートに高い相関を持つ。
13	康复期老年病人社会支持模式的研究 (A study on social support mode for senile patients in convalescence stage) (陈明敏 厉群 李淑华 凤仙 张晓春 2004)	金華市にある病院に入院している、意識はあるが、身体障害のある65歳以上の高齢者153名	1)ソーシャルサポート測定尺度(SSRS)10項目 2)生活満足度測定尺度(LSR)25項目 3)憂うつ自己測定尺度(SDS)20項目 4)日常生活能力測定尺度(ADL)14項目	①情緒的サポートは客観的サポートより意味がある。 ②「過保護」の生活介護は心理的、身体的な回復に不利である。 ③回復期高齢者は最も情緒的サポートを望む。

14	郑州市老年人社会支持及心理健康状况调查 (Investigation of social support and mental health of the elder individuals in Zhengzhou urban area) (王建英 崔冬梅 邢华燕 常青 2005)	郑州市居住在河南省的8つの市に住む高齢者314名, 年齢は55~96歳, 男性431名, 女性409名	1) 高齢者心理的健康質問項目 (50項目), 2) ソーシャルサポート測定尺度 (10項目)	① 年齢, 教育歴, 職業別の高齢者のソーシャルサポートに有意な差が見られた. ② 高齢者のソーシャルサポートと心理的健康状況の下位領域の性格, 情緒, 適応, 総合得点に正の相関が見られた.
15	314名城市老年居民主观幸福感与社会支持的相关性研究 (An study of the relationships between social support and subjective well-being of 314 elderly resident) (郑宏 陈功香 2005)	山東省の8つの市に住む高齢者314名, 年齢は55~80歳, 平均年齢は62.41, 男性198名, 女性116名	1) DMUNSH測定尺 (Memorial University of Newfoundland Scale of Happiness) (24項目) 2) ソーシャルサポートの測定尺度	① 幸福度の正の因子の平均得点は15.94±6.00, 負の因子の平均得点は5.10±5.58, 高齢者の主観的幸福感は高い. 客観的サポートの平均得点は10.58±3.50, 主観的サポートは23.82±5.31, 高齢者のソーシャルサポートは主に主観的サポートである. ② 性別は主観的幸福感に影響がない. 婚姻状況は幸福感に影響があり, 有意な差がみられた. 教育歴が主観的幸福感に影響があり, 教育歴が高ければ高いほど, 主観的幸福感も高い. ③ 主観的幸福感各因子とソーシャルサポートの各因子との相関を見ると, 正の因子と主観的サポート以外, すべて相関がある. 重回帰分析の結果, 主観的サポートは正の因子以外すべて有意な正の相関がある. またサポートの利用度は幸福感に強い関係がある.
16	济宁市城区老年人社会支持及影响因素探讨 (谭敏 孔德众 李晶 2003)	济宁市居住している60歳以上高齢者180名	1) 基本属性. 2) ソーシャルサポート測定尺度 (SSRS)	① 教育歴: 小学校卒及びそれ以下が95名 (53.7%), 中学校卒が27名 (15.3%), 高校卒及びそれ以上が55名 (31.1%). 職業: 農業74名 (41.8%), 工場作業39名 (22%), 行政幹部32名 (18.1%), 教師, 技術員, 医者32名 (18.1%). ② ソーシャルサポートの獲得には性別, 職業の差が見られなかった. 主観的サポートにおいて教育歴の違いに有意な差がみられた. 配偶者がいる高齢者と配偶者がいない高齢者では, 獲得するソーシャルサポートにおいて, 有意な差が見られた. 配偶者がいる高齢者は, サポートの利用度も高い. 職業においては有意な差が見られなかった. ③ ソーシャルサポートとの相関因子分析の結果は, 婚姻状況や, 職業において正の相関があり, 年齢には負の相関がある. 教育歴には相関がない.
17	农村高龄老人主观幸福感及其影响因素研究 (梁渊 曾尔元 吴植恩 李谨邑 卢祖洵 2004)	湖北省農村部の80歳以上高齢者136名	1) 基本属性, 性, 年齢, 教育程度, 婚姻状況, 政治関係, 健康方式, 経済状況 2) 主観的幸福感 (Gurin, Veroff の質問項目)	① 主観的幸福感の分布をみると, 楽しいと思っている高齢者は99人 (男性37人, 女性62人), 「非常に同意する」11人, 「同意する」94人, 「ほとんど同意する」4人, 楽しくないと思っている高齢者は35人 (男性16人, 女性19人) であった. ② 主観的幸福感を従属変数として, Logistic回帰分析をした結果, 「経済状況」, 「長寿」, 「扶養してくれ人」がいけないことを心配する, 「子供の親不孝ぶりを心配する」, 「仏様に任せろ」などを独立変数として抽出した. 仏様に任せろと思っている高齢者は主観的幸福感が高い. ③ 主観的幸福感に影響する要因のパス分析の結果, もっとも影響するのは「経済状況」, 次は「扶養してくれ人」がいけないことを心配する, 「子供の親不孝ぶりを心配する」.
18	农村老年人社会支持网络一和种人提供何种支持 (Social Support Network of Older People: Which Kind of people provide which kind of Social support) (贺襄平 2005)	山西省農村部に住む60歳以上の高齢者638名	1) 基本属性, 性, 年齢, 教育程度, 婚姻状況, 政治関係, 職業, 収入 2) ソーシャルサポートネットワークの質問項目 (Vander Poelを参考)	① ソーシャルネットワークにおいて, 親族は最も多く (67.8%), そのうち子供が56%を占める. 非親族においては, 近所の人が60%を占め, その中で友達が19.8%, 仕事仲間が2.7%を占める. ② ソーシャルサポートとサポートを提供する人との関係: 親族は情緒的サポートと手段的サポートの主要な源であり, 日常の付き合い関係は非親族が強い. 友達に外出や, 訪問などの社交的活動に最も高い相関がある. 仕事仲間との弱い関係が, 高齢者が子供とめとめることがあつたら, 仕事仲間をサポートしてもらう. ③ 息子が提供するサポート: 両親の体が弱つて仕事ができないときの扶養, お金を貸すこと, 力仕事をやってあげる, 重要なことがあつた時のサポート. ④ 娘が提供するサポート: 両親が病気を罹つたときの介護, 重要なことを決めるときをサポート. ⑤ 妻や主人: 介護や, 一緒に外出する, 気分が良くないときに配偶者と相談する. ⑥ 兄弟: 家族でもめることがあつたときに, 慰めたり, 調停する役割がある. 兄弟はお互いに訪問の対象である.

参考文献：

- 上野徳美 2002 ソーシャルサポートとヘルスケアシステム 日本健康心理学会編 『健康心理学基礎シリーズ—健康心理学概論 (1)』実務教育出版
- 王建英 催冬梅 邢华燕 常青 郑州城区老年人社会支持及心理健康状况调查(Investigation of social support and mental health of the elder individuals in Zhengzhou urban area) 郑州大学学报(医学版) 2005 Vol.40 No.5 917-919
- 王大华 申继亮 佟雁 老年人与成年子女间社会支持的结构及特点 (Structure and characteristic of social supports between the elderly and their adult children) 中国心理衛生雑誌 2005 Vol.17 No.11 749、782
- 贺赛平 农村老年人社会支持网—和种人提供何种支持 (Social Support Network of Older People : Which Kind of people provide which kind of Social support) 中国社会学 2005 年会論文
- 甘建华 陈梅 绍兴市区老年人心理健康状况及于社会支持的相关性 (Analysis on Mental Health and its Pertinence of Society's Support of Elder in Shaoxin City)健康心理学雑誌 2001 Vol.9 No.5 392-393
- 许传新 陈国华 社会支持网规模与老年人生活满意度的关系 統計与決策 2004 Vol.9 69-70
- 黄俭强 陈琪尔 舒小芳 社区老年人生存质量与社会支持的相关性研究 (A study on the relationship between quality of life and social support of elder in community) 中国行為医学科学 2005 Vol.14 No.8 725-726
- 崔丽娟 秦茵养 老院老人社会支持网络和生活满足度研究 心理科学 2001 Vol.24 No.4 425-428
- 申继亮 张金颖 佟雁 周丽清 老年人与成年子女间社会支持与老年人自尊的关系 中国心理衛生雑誌 2003 Vol.17 No.11 749,782
- 周林刚 冯建华 社会支持理论— 一个文献的回顾 广西师范学院学报 2005 Vol.26 No.3 11-14
- 寿莉莉 朱即明 上海市高龄老人生活质量及其社会政策支持 2001 中国人口增刊 97-100
- 瞿敏 孔德众 李晶 济宁市城区老年人社会支持及相关因素探讨 济宁市医学院学报 2003 Vol.26 No.1 52-53
- 肖水源 社会支持评定量表 SSRS <http://www.5xx.cn/data/25461/detail.php?thisid=7867>
- 孙海香 梁芬 于鸿宾 老年病人脑卒中后忧郁与社会支持的相关分析及心理护理(Correlation between post-stroke depression in old patients and social support and psychological nursing) 南方護理学报 2003 Vol.10 No.5 13-14
- 孙唐水 社会工作在老年介护与服务中的作用 2004 南京人口管理干部学院学报 Vol.20 No.3 14-17
- 田中共子 2002 「社会関係」のアセスメントの種類と活用 日本健康心理学会編 『健康心理学

基礎シリーズ—健康心理アセスメント概論(2)』 実務教育出版

陈立新 姚远 社会支持对老年人心理健康影响的研究 人口研究 2005 Vol.29 No.4 73-78

陈明敏 厉群 李淑华 朱凤仙 张晓春 康复期老年病人社会支持模式的研究
(A study on social support mode for senile patients in convalescence stage) 護理研究 2004
Vol.18 No.10 1722-1724

张洪英 社会支持网络及其在社会工作(个案)中的应用 中華女子学院山東分院学報 2002 No.2
47-49

郑宏志 陈功香 314 名城市老年居民主观幸福感与社会支持的相关性研究(An study of the
relationships between social support and subjective well-being of 314 elderly resident) 中国
行為医学科学 2005 Vol.14 No.9 820-821

姚远 非正式支持与中国老年人的生活质量 人口与经济 2002

梁渊 曾尔亢 吴植恩 李谨邑 卢祖洵 农村高龄老人主观幸福感及其影响因素研究 中国老年学
雜誌 2004 Vol.24 97-98

Lei Zhang, Li Li, Jing-xia Zhang, Jiu-Yi Huang, Yong Long, Bo Wang, Liang-Shou Li Effect of
confidence and social support on quality of life in elderly Chinese in Suzhou
中国臨床康复 2004 Vol.8 No.30 6769-6771

注：

1) 中国統計局 http://www.stats.gov.cn/tjgb/rkpcgb/qgrkpcgb/t20060316_402310923.htm

2) http://www.cnca.org.cn/include/content3.asp?thing_id=11336 全国老龄办常务副主任李本公
在全国养老服务社会化经验交流会议上的讲话(06-07-25)

3) <http://economy.enorth.com.cn/system/2004/08/04/000835145.shtml> 联合国开发计划署报告：中
国人均 GDP 达 4580 美元

4) <http://www.cpirc.org.cn/tjsj/tjsj.asp> 中国人口信息网